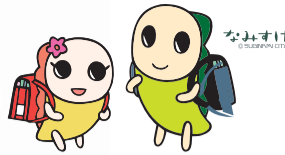




すぎなみ教育報



No.216

平成27年3月10日
(年4回発行)

すぎなみの教育情報発信中!

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 03-3312-2111 FAX 03-5307-0692

小中一貫教育校 杉並和泉学園が開校します

平成27年4月、新泉小学校、和泉小学校と和泉中学校が統合し、区内初となる施設一体型の小中一貫教育校が開校します。



全体図



教室



ランチスペース

杉並和泉学園では、小学校と中学校の教員がひとつの職員室において日常的に情報交換し、相互理解を深め、両者の「よさ」を生かした教育活動を展開していきます。

また、ひとつの校舎の中で多様な年齢の子ども同士が日常的に触れ合うことにより、低学年を思いやる心や高学年への憧れが芽生え、学習意欲の向上が期待されます。

小学校と中学校が一体となって、9年間を見通した一貫性のある教育を実践し、子どもたちの学力・体力の向上を図っていきます。

学園歌

杉並和泉学園学園歌
今生きている私たちは

作詞・作曲 山崎朋子

緑眩しい 和泉のふもと
広がる青空 流れる小川
希望の歌よ 高らかに
空まで届け 思いのせて

今生きている私たちは
果てしなく つながる時の中で
今生きている私たちは
ここに生まれて ここで生きている

笑顔あふれる 和泉の校舎
深まる友情 手と手をつなぎ
夢を語ろう 輝ける
未来へ向かい 歩き出そう

今生きている私たちは
遙かなる山脈 仰ぎながら
今生きている私たちは
共に進もう 新しい明日へ
共に歩もう 新しい明日へ

学園章

小中一貫教育という新しい教育にふさわしい形を表しました。



上部の「冠」は、「泉」に落ちた雫が広がっています。9つの突起は小中学校の9年間を表しています。



左右を取り巻く波のデザインは、「泉」が湧き出る水しぶきを表しています。



「IZUMI」の下の3つの矢印が合体した形は、新泉小学校・和泉小学校・和泉中学校の3校が一つになり小中一貫教育校として進んでいく想いと、両手を広げて健やかに育つ児童・生徒を表しています。



設置懇談会

開校に向け、学校関係者・地域・保護者などからなる新泉・和泉地区小中一貫教育校設置懇談会を平成22年に設置し4年6か月にわたり、教育方針、設計、学校名、学園名、通学路などについて意見交換を行ってきました。詳しくは、教育委員会ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

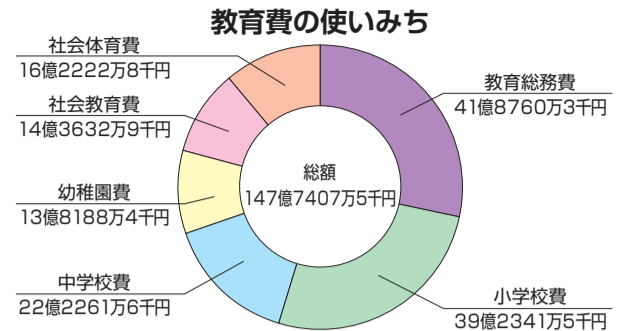


杉並和泉学園は、今回開校する小中一貫教育校の通称名です。条例上の学校名は杉並区立新泉和泉小学校と杉並区立和泉中学校です。

問合せ：学校支援課 計画調整担当

平成27年度 教育予算(案)の 主な事業を紹介します

杉並区は、平成27年度を基本構想の実現に向けた取組みを加速させる年と位置付け、『少子高齢社会』へのチャレンジ予算を編成しました。教育予算(案)は147億7407万5千円となり、区の一般会計予算の約9%を占めています。



○情報教育の推進 (7億 2,895 万円)

動画やカラー画像など、多彩で魅力的なデジタル教材の利用を促進し、教材準備の効率化と児童・生徒の理解の向上に役立てます。また、全教科において協働学習や個別学習で利用することができるよう、情報端末の数を増やし、将来的には1人に1台の専用機配備を目指すとともに、セキュリティが確保されたネットワークを整備し、21世紀の教育にふさわしい学習環境を整えていきます。

○就学前教育 (466 万 4 千円)

- ・先進的な実践を行うモデル校としての役割を担う幼保小連携推進校を指定し、互恵性のある幼保小連携の取組みについて一層の充実を図ります。
- ・「(仮称) 就学前教育支援センター構想」を検討するなど、就学前教育の推進体制について再構築を図ります。

○区内医療機関とのアレルギー対応ホットラインの開設 (78 万 1 千円)

区立学校におけるアレルギー対策については、これまで教育委員会と学校が一体となって事故防止に努めてきましたが、緊急時の更なる体制強化のため、小児救急医療に対応が可能な社会医療法人河北医療財団河北総合病院とホットラインを開設します。

杉並区次世代育成基金活用事業

杉並区では次代を担う子どもたちのために創設した「次世代育成基金」を活用した事業を行っています。

杉並区中学生海外留学事業

杉並区では区内在住の中学生を、交流都市であるオーストラリア連邦ウィロビー市に留学生として派遣する次世代育成基金活用事業「中学生海外留学」を実施します。

現地校での授業体験や課題解決学習、ホストファミリーとの交流等の体験活動を通して、「夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く」人として成長していくことが期待されます。

- 派遣日程 平成27年8月18日(火) ~8月30日(日) 12泊13日

※気象状況等による欠航の場合は渡航中止。

- 派遣生徒 区内在住の中学校 第2~3学年の生徒25名

- 選考 一次選考(書類選考)後、二次選考(日本語と英語による面接と、日本語によるグループ討議)により決定
- 参加費 無料
※パスポート取得に関わる費用、現地の昼食費、ホームステイ先から学校間の公共交通機関の費用、施設入場料等は自己負担
- 主な学習・体験・交流等の活動 結団式、学習会、壮行会、現地留学(授業体験、施設見学、課題解決学習等)、ホストファミリーとの交流、成果報告会



☆参加申込に関する詳細は、「広報すぎなみ」及び区ホームページに掲載予定です。

問合せ：済美教育センター ☎ 03-3311-0021

杉並区次世代トップアスリート育成・支援事業「チャレンジ・アスリート」

2020年の東京でのオリンピック・パラリンピックの開催に向けて、地域ぐるみで次世代のトップアスリート等を目指す青少年を支援し、スポーツを通じて子どもたちの夢を育むことを目的に実施しています。

- ・平成26年度は28名の参加者が、
- ・オリンピック出場経験者からの実技指導
- ・専門スポーツ施設の見学・体験
- ・パラリンピック種目の体験
- ・公募参加者とともにオリンピック・パラリンピックについて考える「オリンピック教育(公開講座)」

- ・アスリートを支える大人たちの心意気に触れる「スポーツ職場見学」を受講し、スポーツを総合的に学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックに対する見聞を深めました。
- ・今後も、子どもたちが広くスポーツに親しみ、スポーツへの夢を抱き、競技を極め、オリンピック・パラリンピック選手や、スポーツトレーナー・スポーツボランティア等を目指すなど、スポーツを取り巻く多様な可能性に気づく機会を提供していきます。



問合せ：スポーツ振興課 事業係

「次世代育成基金」に皆様の応援寄附をお願いします。寄附のお申し出は、児童青少年課 青少年係 ☎ 03-3393-4760

▶▶▶ 平成 27 年度 就学援助のお知らせ

就学援助は、区内在住で国公立の小・中学校に通学している児童・生徒の保護者に対し、学用品や給食など学校で必要な費用の一部を杉並区が援助する制度です。

【対象】 杉並区に居住している児童・生徒と同居の保護者で、次のいずれかに該当する方

- (1) 現在、福祉事務所の生活保護を受けている。
- (2) 平成26年4月1日以降に、生活保護が停止・廃止になった。
- (3) 平成26年中の世帯員全員の総所得金額の合計が、教育委員会で定める認定基準額以下の世帯。

【申込】 申請書は、4月以降に区立小・中学校または学務課就学奨励担当で配布します。区外の学校に通学している児童・生徒の保護者で、就学援助の受給を希望される方は、同担当までお問合せください。 【問合せ】 学務課 就学奨励担当

子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小連携の取組み

教育委員会では、平成26年2月に「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」を策定しました。これを参考にしながら各区立小学校では、近隣の公私立の幼稚園や保育園、子供園との関わりを深め、お互いに“参観・参加・交流の充実”を目指して「幼保小連携」の取組みを進めています。

この「幼保小連携」の目標は、園と小学校の教育内容や指導方法の接続です。園と小学校の先生が相互理解して、就学前の遊びを中心として培った育ちと学びを、小学校で確実に受け継いでいくなど、幼児期から児童期にかけての接続期を滑らかにつないでいきます。

出会いと始まり



1年生の教室に御招待（松庵小）
「小学生との出会い」

杉並区の幼保小連携の具体的な連携・交流活動には4つの方策があります。そのうちのひとつが、「幼児と児童の交流活動」です。

幼児は、小学生との触れ合いを楽しみ、憧れの気持ちをもち、小学校生活に見通しをもつことができます。

児童は、年少者への思いやりの気持ちを育むとともに、自分の成長に気付くことができます。

交流活動を通して、これらの幼児と児童の双方に育ちと学びがあるように、それぞれの園と小学校で創意工夫して取り組んでいます。

小学校の給食体験



給食配膳の体験（杉並第八小）



交流会のプログラム（杉並第八小）
「はじめの会」

遊びを中心として幼児と児童が交流



校庭で花いちもんめ（高井戸小）



小学校の子ども祭りで遊ぶ（井荻小）

★幼児の小学校生活への不安を解消し、憧れや期待感を高めるために、それぞれの園と小学校では、年間にわたって、主に次のような過程を工夫して、計画的に取り組んでいます。

- ① 興味・関心をもつ段階
- ② 慣れ親しむ段階
- ③ 期待感を高める段階



体育館での遊び（和泉小）



読み聞かせ（大宮小）

終わりの会とお見送り



終わりの会（馬橋小）
「感想を交流し、感謝し合う」



お見送り（馬橋小）
「楽しかったね、また来てね」

問合せ：済美教育センター ☎ 03-3311-0021



未来へつながるタブレットパソコンの活用

～子どもたちの学力・体力向上のために研究に取り組んでいます！～

教育委員会では、子どもたちの学力・体力の向上を図ることを目的にタブレットPCを使った授業開発を進めています。タブレットPCは、いつでもどこでも個別で使え、撮影する、見る、書き込む、サイズを変える、友達に見せるといったことを簡単に行えます。このようなよさを生かした授業の研究・実践に取り組んでいる桃井第二小学校、桃井第三小学校、天沼小学校、そして井草中学校の特別支援学級での様子や子どもたちの感想を紹介します。これからもタブレットPCのよさを教員が理解し、授業で効果的な活用ができるよう研究を進めていきます。

桃井第二小学校



今まで取り組んできた環境問題や地域との関わりについてまとめたことを、プレゼンテーション形式で発表しました。タブレットPCを活用して、視覚的にも分かりやすい内容になるよう心がけました。

桃井第三小学校



自分が調べたことをタブレットPCでまとめ、その内容について意見交流をしました。交流後、自分のまとめを見直し修正を加え、よりよい発表資料に仕上げることができました。

天沼小学校



理科の「流れる水のはたらき」の流水実験の様子を、タブレットPCで撮影しました。その後、そのデータを整理し、聞き手が納得するような実験結果と考察の説明を考えました。

井草中学校



キーボード入力か手書き入力かを生徒自身で選び、自分に合った方法で学習や作業を進めています。また、教科書や資料を読むときは、音声読み上げソフトを使用するなどの工夫をしています。

（子どもの感想から）

- ・映像を見ながら説明をすることができるので、分かりやすいです。
- ・教室に戻って、実験の様子を見直したり、他の班の友達に見せたりすることができるから、とても便利です。
- ・キーボードの打ち込みだけでなく、手書きで入力できるからすごく使いやすいです。
- ・持ち運びができるから、どんな場面でも使うことができました。だから話し合いのときもたくさん使えて便利でした。

問合せ：済美教育センター ☎ 03-3311-0021

郷土博物館リニューアル

本館の常設展示を更新します。展示室の壁面やステージを、容易に展示替えできるように改修し、すべての展示パネルを一新します。今後は、調査・研究の進展や来館者の興味・関心に応じて、常設展示も柔軟に更新していきます。このため、3月2日（月）～27日（金）まで休館します。新装オープンは3月28日（土）の予定です。なお、分館は通常どおり開館します。

問合せ：郷土博物館 ☎ 03-3317-0841

「家庭教育講座」 名感想集からみる保護者の学び

杉並区立小学校 PTA 連合協議会と協働した家庭教育講座(全7回)が盛況のうちに終了しました。ここでは第3分区と第6分区の講座参加者からの声をご紹介します。

講座名：子どもは大人のパートナー



- 「生まれた時は、命あるだけでよかった」はずだった気持ちを思い出しました。成長と共に親の欲が出てあれもこれも出来るようにと強く押し付けすぎてきたと思います。目の前の輝かしい命を大切にというお話しにハッとさせられました。
- 自分の人生なのだからという意味で“やるかやらないか”など自分で選択させるように心がけていましたが、それが責任のがれや放任とならないバランスを学ぶことが出来ました。

昨年度の杉並区立小学校 PTA 連合協議会と協働した家庭教育講座は、WEB で講演録を公開中です。

WEB 杉並区教育委員会 家庭教育支援

講座名：しつけの力は言葉の力



子ども達の可能性を引き出す家庭教育

- 「言葉を意味通りに使わない子どもの周りにはそのような大人がいる」に、とてもハッとさせられました。私自身が言葉の重みをきちんと理解し、子どもの心の中で成長していく言葉(言霊)を発していきたいと思いました。
- 子どもを叱る時をもっと見直すべきだと感じました。「なんで、どうして?」と「だって」はセットの言葉と聞き、改めて「どうしたかったの?」「何をしたかったの?」と子どもの本音を引き出そうと思いました。「本当に引き出した子どもの姿」は何なのか、常に考えるのが難しくもあり、大事なことだと思いました。
- 「大人は子どもにウザイと思われてもいいが、ズルイと思われてはいけない」という言葉に納得しました。「ママ、ウザイ」とよく言われる日々ですが、子どもにまともに向き合っている証しと聞いて背中を押していただけました。

問合せ：学校支援課 家庭・地域教育担当

共生社会の実現に向けて 特別支援学校で学ぶ児童・生徒の副籍制度

副籍制度は、特別支援学校の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区立小・中学校(地域指定校)に副次的な籍(副籍)をもち、直接的な交流(学校行事や授業に参加)や間接的な交流(学校便り交換や作品展示)を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度です。平成27年度の入学者から全員が副籍をもちます。

副籍制度に基づく交流活動は、子ども一人ひとりの「心」を育てる教育の場であり、障害のある人への理解に留まらず、「社会には様々な立場や考え方の違う人がいて当たり前である」という人間同士の相互理解(人権教育)や、思いやりの気持ちを大切にできる人格の形成につながるものです。(参考:副籍ガイドブック 東京都教育委員会)

共生社会のイメージ

- ★街の中では
 - ・障害のある人が気軽に外出でき、人々が気軽に挨拶し合い、声を掛け合い、自然に手を差し伸べる様子が見られる。
- ★公園では
 - ・障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に遊んでいる。
- ★家庭(家族)同士では
 - ・障害のある子どもを育てる家庭と近隣家庭との日常的な交流があり、必要ときに支援を求める(手助けをする)ことができる。
 - ・大規模災害の発生時等には、お互いに助け合うことができる。
- ★職場では
 - ・障害のある人と障害のない人が協力し、ともに生き生きと働いている。
- ★公共交通機関では
 - ・障害のある人や高齢者等に自ら席を譲る場面が見られる。
- ★地域の行事では
 - ・障害のある子どもも、地域の一員として参加でき、障害のない人々とともに楽しむことができる。
- ★学校では
 - ・障害のある子どもと障害のない子どもがともに学ぶ場面がある。
 - 【交流及び共同学習の推進】

子ども同士の「ふれあい」を大切にした交流及び共同学習

杉並区では、特別支援学校に通っている子どもたちが、副籍制度を利用して居住している地域の小・中学校において、子ども同士のふれあいを大切にした交流及び共同学習を進めています。



◀都立中央ろう学校と向陽中学校では、継続的に部活動交流を行っています。卓球部や野球部などが練習試合を行ったり、レクリエーションを行ったりして、お互いの理解を深めています。

問合せ：特別支援教育課 ☎ 03-3311-1921

第6回 中学生「東京駅伝」大会

2月8日(日)に味の素スタジアムで行なわれた、第6回中学生「東京駅伝」大会にて杉並区の選抜チームが男子の部50チーム中5位、女子の部50チーム中6位、男女総合6位と好成績を収めました。



「東京駅伝」は、中学校教育の一環として、健康増進や持久力をはじめとする体力向上、スポーツの振興及び生徒の競技力の向上を目的とした、区市町村対抗の駅伝競走です。東京都の各区市町村から選抜された中学2年生の選手たちが、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コース(男子42.195km17区間、女子30km16区間)をタスキでつなぎます。杉並区の男子21名(補員選手4名含む)、女子21名(補員選手5名含む)の精鋭たちも、冬空の下、気力、体力、チームワークで大会にのぞむことができました。

問合せ：スポーツ振興課 事業係

おめでとうございます!

この度、各学校における取組みが表彰されました。その活動内容を紹介します。

- 平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰 **三谷小学校 “学校支援・地域共生本部”**
地域に開かれた学校の取組みを広く知ってもらうため、毎年「CSフェスタ」を開催しています。学校運営協議会では、毎回あらかじめ定めたテーマに関し教職員から報告があり、教育の実践に向けての具体的な意見交換を実施しています。また、放課後活動の「そてつ教室」や土曜日の活動である「グローバルキッズ(国際理解教室)」等が学校支援本部を中心とし、地域と学校の連携で行われています。
- 平成26年度文部科学大臣表彰「学校保健及び学校安全表彰」 **三谷小学校**
運動・食育・保健(生活習慣)を三本柱にした総合的な健康教育を地域・家庭との連携・協働により継続的に実践しています。また、学校安全においても、東日本大震災の振り返りから、地域との連携・協働により、きめ細かい防災教育を実施しています。
- 平成26年度健康教育推進学校表彰【優良校】 **桃井第一小学校**
学校教育目標に「たくましい子」を育成することを掲げ、運動能力だけでなく、食育や基本的生活習慣を含めた総合的な力である「からだ力(りょく)」の向上を目的に健康教育を積極的に進め、児童の「からだ力(りょく)」の向上に貢献しました。

教育委員会の動き(平成26年12月~平成27年2月)

【教育委員会開催状況】 ・定例会4回 ・臨時会1回 ・議案12件 ・報告事項20件

【主な案件】 ○は議案、●は報告事項

- ◎杉並区特別職報酬等審議会条例の一部を改正する条例
- 平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰の決定について
- 平成26年度杉並区教育委員会教職員表彰並びに杉並区学校文化栄誉顕彰について
- 特別支援教育推進計画改定の基本的な考え方について
- 郷土博物館常設展示のリニューアルと特別休館について
- 都立学校体育施設開放事業に関する協定について
- 平成26年度学力等調査の結果について
- 平成26年度体力等調査の結果について

●再生紙を使用しています